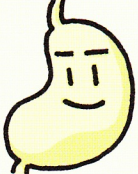


ABC検診で、胃の健康度をチェック!!

2つの血液検査の結果から、胃がんのリスクを分類します。

ABC検診は、ヘリコバクターピロリIgG抗体検査でピロリ菌感染の有無およびペプシノゲン検査で胃粘膜萎縮度を調べ、その二つの結果を組み合わせることで胃がんのリスクをA,B,C,Dの4群に分類します。

検査結果による分類

ABC分類		ヘリコバクターピロリIgG抗体検査判定	
		10未満(－)	10以上(+)
ペプシノゲン検査判定	(－)	 A	 B
	(1+) ↓ (3+)	 D	 C

各群の内容*

A 群	健康的な胃粘膜で、胃疾患の危険性は低いと考えられます。
B 群	消化性潰瘍などに留意する必要があります。
C 群	胃がんの高危険群と考えられます。
D 群	胃がんの、より高危険群と考えられます。

●ヘリコバクターピロリIgG抗体検査

胃にピロリ菌が感染していないか調べる検査です。

ピロリ菌は胃粘膜にダメージを与え、さまざまな病気の引きがねになると考えられています。

●ペプシノゲン検査

胃粘膜の老化(萎縮)の状態を調べる検査で、胃がん検診にも応用されています。

萎縮が進んだ胃は、胃がんになりやすいといわれています。

注意事項*

以下の場合には正しい結果が得られない可能性がありますので、担当医にご相談願います。

- 明らかな上部消化器症状があり、胃や十二指腸の疾患が強く疑われる方
- 食道、胃、十二指腸疾患で治療中の方
- 胃酸分泌抑制薬(プロトンポンプ阻害薬)服用中もしくは2カ月以内に服用していた方
- 胃切除後の方
- 腎不全(目安:クレアチニン値が3mg/dL以上)の方

過去にピロリ菌を除菌したことのある方(除菌群=E群)は、A群と判定される可能性があります。未感染のA群とは状況が全く異なりますので、注意が必要です。

*胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル(2009年) NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構編集より

監修:NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正